

ティーチング・ポートフォリオ

西川 誠

(記入日： 令和 5年 3月 13日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

日本史概説(2) (2年前期必修)

日本史演習(3) (3年通年選択必修) 史資料演習 (4年通年必修(複数開講))

卒業論文 (4年通年必修(複数開講))

総合講座(1)~(4)

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

①日本史学に関する基礎的知識を習得すること

②日本史学における課題を見つけ調査する能力を涵養すること

それを一般的な調査検討能力に拡充すること

③収集した情報を基に思考し、まとめ、分かりやすく提示する能力を身につけること

④独断的観念体系に陥らない思考を身につけること

⑤総合講座においては自校教育

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

①については、学生の基礎的能力に合わせた教材を作成した。これまでの学生の反応を考えて、バージョンアップしている。日本史概説の授業評価は向上した。【日本史概説(2)】(エビデンス1・4)

②の前半と③については、学生にレジメを作成させ、報告、ディスカッションを行わせた。卒業論文については、学生の学習態度もあり、調査検討にばらつきが生じた。【日本史演習(3)・史資料演習・特殊研究・卒業論文】(エビデンス2)

④については、卒業論文作成の際に指導した。【卒業論文】(エビデンス3)

⑤についてはオムニバスであるので、担当者会議を開いて方向性を確認している。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

- ① については、概ね学生の反応は良い。授業方法については一部厳しい意見があった。（エビデンス4）
- ② ③については、学生の事前学修を丁寧にアドバイスしたので、調査はかなりでき、それを反映したレジメも良好なものであった。ディスカッションは盛んとはいえない。
- ④ については、各人が一面的な判断を避けたと考える。
- ⑤ については、自校教育ができたと考える。

5 今後の目標（これからどうするか）

- ①については、毎年の改良を重ねていくとともに、リアクションペーパーの反応を反映させる。
- ②③については、事前学修の促しと、報告者への指導を重ねていく。
- ④については、今後も指摘していきたい。
- ⑤については、担当者との意思疎通を充実させたい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 各授業の配布レジメ・史料（非公開）
- 2 学生の作成したレジメ集（非公開）
なお日本史演習(3)で用いた主な教材は以下の通り。
 - ・鈴木淳・西川誠・松沢裕作編著『史料を読み解く4 幕末・維新の政治と社会』（山川出版社・平成19年）
- 3 ゼミ生9名の卒業論文（非公開、2点のみ学生研究室で在校生に限り公開）
- 4 授業評価アンケート（非公開）

ティーチング・ポートフォリオ

柳川 悦子

(記入日：令和4年9月25日)

1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

「旅行事業論／旅行業論」（前期選択必修科目）、「観光マーケティング論／観光マーケティング」（前期選択必修科目）、「観光文化実践Ⅷ」（前期選択必修科目）、「現代の社会」（前期選択必修科目）、「エアライン事業論」（後期選択必修科目）、「旅行業務取扱管理者講座（1）」（前期専門科目・国家資格取得）、「旅行業務取扱管理者講座（2）」（後期専門科目・国家資格取得）、「キャリア・プランニングⅢ(2)」（後期選択必修科目）、「キャリア・プランニングⅣ(2)」（後期選択必修科目）、「観光文化入門演習」（2年後期必修科目）、「観光文化専門演習（1）」（3年前期必修科目）、「観光文化専門演習（2）」（3年後期必修科目）、「卒業研究演習（通年）」（4年必修科目）など。

2 理念（なぜやっているか：教育目標）

- 大学時代に自ら積極的に学ぶ習慣を身につけ、問題に自ら気づき、主体的に問題解決を図る力を身につける機会を提供することを教育目標としている。
- 学生自身が、観光産業という多様性に富んだ社会を理解し、コミュニケーション力や協調性といった可視化できない社会人基礎力を磨いていくことを目指している。
- 国家資格である「旅行業務取扱管理者」の合格者を一人でも多く輩出すること。
- 担当者が実務家教員として、航空会社の 広報・マーケティングの現場に長年勤務して培った観光に関する知識を活かし、観光の総論的知識や枠組み、関連業務のあり方について、学生が正確な知識を得て、きちんと理解できる事を目指している

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

専門科目は、各クラスの履修生に1年生～4年生各学年が存在するという状況下、観光専門科目に関する習熟度の違いを踏まえて、学生のひとり一人の不安を取り除くよう、授業内容の理解度を確認しつつ、できるだけ身近に起こっている観光関連企業の事象を例にして指導を行った。

また、「観光文化実践Ⅳ」では、コロナ禍ではあるが、感染対策を十分に行っている外資系ホテル（北海道ウエスティン・ルスツ）、日本の名門クラシックホテル（箱根富士屋ホテル）、JR系ホテル（メトロポリタン）、旅行会社（ポケットカルチャー、JTB、ジャルパック）など、夏季インターンシップとして7名の学生を派遣した。このような中身の濃い実習について、各自の振り返りを指導し、今後の学生生活や就活について、深く考察する機会も持つことができた。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

国家資格取得のための科目である「旅行業務取扱管理者講座」については、昨年に引き続き、学生がそれぞれ自分から学ぶ姿勢を持つ学生が増えたように感じている。昨年度の試験では、初めて2名合格することができ、今年度も9月に数名が受験し、合格の期待が高まっていることを喜ばしく思っている。

また、学生の授業評価アンケートについて、2年続けて、上位5%に入れたことは、授業の工夫が認められたようで素直に嬉しく思っている。

5 今後の目標（これからどうするか）

コロナの感染対策に十分に留意しながら、グループワークなどを中心に行い、まず、自分の頭で考えること、そして、他の学生の考えなどを知る事により、問題意識を持ち、多様性を重んじ、協調性を育む、というような学生の主体的な学びを促したい、と考えている。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

成果を確認できるものには、次のものがある。

- ・授業用パワーポイント資料（各講義科目では1回の授業で20枚～25枚程度の資料を配布）
- ・授業ごとにFormsや「課題」を利用して聴取した授業の感想等
- ・授業評価アンケート

ティーチング・ポートフォリオ

君島 俊克

(記入日：2022年9月28日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

担当科目は、観光文化学科対象の「地誌学(1)」(前期教職科目2単位)、「地理学概説(1)」(前期教職科目2単位)、「世界地誌」(前期選択必修科目2単位)。「観光英語基礎Ⅰ」(1年前期必修科目1単位)、「観光文化(日本)」(前期選択必修科目2単位)、「世界遺産(1)」(前期選択必修科目2単位)、「観光英語特講Ⅱ」(専門科目2単位)、「観光文化専門演習(2)」(3年後期必修科目2単位)、「地理学概説(2)」(後期教職科目2単位)、「観光地理学」(後期選択必修科目2単位)、「観光文化実践Ⅵ」(後期選択必修科目2単位)、「観光英語基礎Ⅱ」(1年後期必修科目1単位)、「観光文化入門演習」(2年後期必修科目2単位)、「観光文化(アメリカ)」(後期選択必修科目2単位)、「日本地誌」(後期選択必修科目2単位)などである。

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

生活に密着した学問である地理学、非日常を経験しに日の生活に活力を与える観光、それらの背景なる奥深い文化や歴史を理解してもらえるように努めている。英語科目においては学校英語とは違う自然な発音の聞き取りに力を入れながら、観光の場面でも役に立つ会話表現を学んでもらえるよう努力をしている。また、資格取得が目指せる「世界遺産」では一人でも多くの合格者を輩出することを目指している。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

国内外の観光や塵に関わる科目を担当しているため、学生たちに場所のイメージや文化背景、さらには自然の形成の中でできた地形の成り立ちなど、学生が普段目にしない情報を得てもらうため、できるだけ具体的な表現で話し、パワーポイントや動画、イラスト、図表などをできるだけ多く見てもらい、視覚にも訴える授業を心掛けている。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

学生たちはどの授業においても私語や居眠りはほとんどなく、真剣に授業に取り組んでいるようであった。また、学生たちも授業をおおむね理解しているように思われた。調べ学習をとまなう「観光文化(日本)」の授業においても目的や方法をきちんと理解して、それぞれ納得のいく成果が上がっていた。

一方、「世界遺産(1)」では授業中に実施した模擬試験でも合格点に達した学生が多かったにも関わらず、7月の検定の受検者数があまり伸びなかったことが悔やまれる。多くの学生が受検していればもっと多くの学生が合格したと思われる。

5 今後の目標 (これからどうするか)

まだ1年目でわからないことが多いが、本学学生は基礎的な知識が不足している場合もあるが、おおむね学習意欲があり、新しい知識を得ることの喜びも感じているようである。したがって、卒業論文・就職につながるように幅広い分野の知識や情報を学生たちに提供していきたいと考える。

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

観光分野では山村順次編著『観光地理学』同文館出版や地理学・地誌学系の授業では朝倉書店の地理学基礎シリーズや世界地誌シリーズなどを参考にし、図表やデータなどはプリントとして配布したうえでパワーポイントを用いて説明を加えている。

ティーチング・ポートフォリオ

観光文化学科

氏名 小山 知子

(記入日：2022 年 8 月 18 日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目 2022 年度前期)

英語 I (1) (1 年前期必修科目 1 単位)

観光英語特講 I (2~4 年前期選択必修科目 2 単位)

観光英語 I (2 年前期必修科目 1 単位)

観光文化実践 I・X (2~4 年前期選択必修科目 2 単位)

キャリア・プランニングⅢ(1) (選択必須科目、2 単位)

観光文化専門演習 I (3 年必修科目 2 単位)

観光文化入門演習 (4 年必須科目、2 単位) など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

英語 I、観光英語特講 I、観光英語 I

- ・理解度に合わせ、知りたいと思っていたこと、興味・関心があることを「英語で読めるようになる」→「聴けるようになる」→「表現できるようになる・話せるようになる」というステップで進め、受講生に英語を学ぶ楽しさと「自分の可能性の広がり」を実感してもらう。
- ・上記をもとに、英語関連の検定試験に向けた学習を始める。

キャリアプランニングⅢ (1)

- ・将来への模索に対応できるよう、自分の長所、強みは何かを知り、どの分野の能力を高めていきたいかを認識できるようになる。
- ・上記をもとに、インターンシップに参加するなど、将来に向けて一歩踏み出せるようになる。

観光文化実践科目

- ・航空会社国際線客室乗務員、シンクタンクでの経験を活かして、社会人として求められるビジネスマナーを実践的に身につける
- ・地域の魅力を発見し、伝えるために、調べ学習⇒現地見学を実施し、観光、文

化、歴史に対する理解を深める。

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

英語 I、観光英語特講 I、観光英語 I

- ・授業冒頭で、その授業回のテーマに沿った自己紹介タイム“Happy Communication”を実施した。
- ・リスニング、リーディングの後、ペアで役割練習を行った。その後、知識の定着を図るために、文章問題、確認テストを実施した。
- ・第8回、15回にプレゼンテーションを実施した。

キャリアプランニングⅢ (1)

- ・SPI 言語、非言語問題の授業回では、各自が問題に取り組む⇒共同学習⇒解説のサイクルで行い、学生同士が協力し、教え合う形式で進めた。
- ・課題解決型プロジェクトでは、プレゼンテーション後、全チームが企画アイデアコンテストに応募した。

観光文化実践科目

- ・実践 I：文京区観光ガイドマップの作成にあたり、観光ガイドとともに現地見学を行い、マップ作成後に講評をいただいた。
- ・実践 X：社会人として働く心構え、マナーを身につけたうえで受講生全員がインターンシップに参加した。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

英語 I、観光英語特講 I、観光英語 I

受講生からは、“Happy Communication”、ペアワーク、プレゼンテーションを通じて、少しずつ英語で会話をすることに抵抗がなくなり、苦手意識も軽減されて楽しかった、というフィードバックが多数見られた。進度、難易度も受講生のレベルに適していたと思われる。後期も双方向型の授業を継続し、英語学習への意欲を高めていく。

キャリアプランニングⅢ (1)

2 学科の学生が共に学び、いろんなアイデアを出し合い、協力していく授業体

制であったこと、企画アイデアコンテストに応募し、企業からフィードバックをいただいたことがよい経験となったというコメントが多く見られた。SPI については、継続して学習する必要性を実感していた。今後の進路選択に向けて、具体的に何に取り組むとよいか明確にすることができたと思われる。

観光文化実践科目

それぞれの授業目標は達成することができたと考えられる。後期も受講生個々の興味、関心、能力に応じ、授業目標を達成できるように努めていく。

5 今後の目標（これからどうするか）

全体的にペア、グループワークを積極的に取り入れたアクティブラーニングを主軸とし、受講生が自ら問いを立て、考え、学習を深めていけるよう、進めていく。また、PROG の結果も参照しながら、個々の学生の特徴を把握し、それぞれの能力の伸長を意識しながら、授業を進めていきたい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

各授業の小テスト、テストの問題と結果（非公開）

各授業の PowerPoint、Word 資料（非公開）

Microsoft Teams の一般機能（非公開）

学生のレポート、観光ガイドマップ（非公開）

2022 年度前期授業評価アンケート

以上

ティーチング・ポートフォリオ

学科：観光文化学科 氏名：江口智子

(記入日：2022年9月20日)

1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

観光経営学（前期、選択必須科目、2単位）、観光の情報デザイン（1）（前期、選択必須科目、2単位）、観光文化実践Ⅴ（前期、選択必須科目、2単位）、観光文化実践Ⅸ（前期、選択必須科目、2単位）、観光文化専門演習（1）（前期、必須科目、2単位）、キャリア・プランニングⅢ（1）（前期、選択必須科目、2単位）、キャリア・プランニングⅣ（1）（前期、選択必須科目、2単位）、卒業研究演習（4年次通年、必修科目、4単位）

2 理念（なぜやっているか：教育目標）

観光立国が志向されるなか、観光を学ぶ学生に対する社会からの期待や、その前提となる課題、問題が現在の社会にどのように存在しているのかを伝えたいと考えている。また、グローバル社会を自分らしく生き、個性と能力を発揮するために必要な学問的知識、実践的知識を習得し、品格を兼ね備えた人材を育成したいと考えている。レポート執筆やプレゼンテーション、ディスカッションを重ね、自分の考えを文章や言葉で伝えるスキルも身につけてもらいたい。

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

今年度前期は、すべての授業が対面授業で学生ひとりひとりの顔を見ながら授業を行うことが出来る環境であった。遠隔授業では限界があった状況把握やコミュニケーションが可能となり、双方向型の授業を目指し実施した。

講義科目では、学生が飽きないような環境作りを行っている。できるだけ大きな字で視覚情報を豊富に使用した資料を作成し、講義を進めている。授業の途中には、質問を投げかけ手を挙げてもらうなどし、学生同士での議論や発表、ミニレポートやリアクションペーパーの記入など、学生が飽きず一方向にならない分かりやすい授業作りに力を入れた。また、専門家から話を聞くことができる貴重な機会としてゲスト講師を招いた。

実践型の授業においては、観光における理論が社会の中でどのように実践されているのかを学ぶことを目的としている。観光文化実践Ⅴ（前期）では、JR東日本グループ傘下のホテルを題材とし、ラグジュアリー・ホテル、シティ・ホテル、バジェット・ホテルに分類されるホテルが、どのような戦略で経営されているかを調べ研究した。東京ステーションホテル（東京）、ホテルメトロポリタン（池袋）、ホテルメッツ（目白）を訪問し、ホテルの隅々

まで見学をし、最終授業で行った各ホテルの収益構造の特徴、顧客ターゲット・主力商品、経営状況の評価、強みや弱みについての発表に大いに役立った。観光の情報デザイン（1）（前期）では、いま注目されている観光情報の「動画」による提供スキルを身につけるべく、散歩動画の制作を行った。観光文化実践 IX（前期）では、産学連携として日野市の農家「ネイバーズファーム」と提携し、業界の悩みや課題を理解したうえで、目白近隣の飲食店でブルーベリーを使用したメニューを販売するというプロジェクトを行っている。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

講義科目では、学生が飽きず一方向にならない分かりやすい授業作りを心がけていたことや、ゲスト講師に登壇いただいたことで、学生の発言や発表の場、コミュニケーションの場が多々あったことで、意欲的に学修できた学生が多かったと感じている。

実践科目では、学生のリアクションペーパーや感想などから、机上の理論ではない社会で役に立つ様々な実践的なスキルが身につけていると感じている。特に産学連携科目では、就職活動を控える学生にとっては、社会人との接し方、メールのやりとりやマナー面でも学ぶことが多く就職活動に有利に働くケースも見受けられる。

5 今後の目標（これからどうするか）

今後も、これまでと同様かつさらに、学生が分かりやすく飽きない授業を行っていきたいと考えている。本学に着任して2年目であるが、学生への教え方、関わり方、サポートの仕方についてこうした方が良いということが自分なりに少しずつ分かってきたように思う。学生ひとりひとりをよく見ながら、社会で活躍するために必要な学問的知識、実践的スキル、自分を表現するコミュニケーション能力を身につけることができる教育に力を入れていきたい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

各授業の PowerPoint 資料（非公開）

リアクションペーパー（非公開）

学生のレポート（非公開）

完成した散歩動画（非公開）

ティーチング・ポートフォリオ

学科：観光文化学科 氏名：山田祐子

(記入日：2022年9月15日)

1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

「観光学」（前期・共通教育科目・選択必修）、「観光事業論」（前期・専門教育科目・必修）、
「観光文化総論(1)」（前期・専門教育科目・必修）、「観光文化総論(2)」（後期・専門教育科目・必修）、
「観光文化入門演習」（後期・専門教育科目・必修）、「観光文化入門演習」（後期・専門教育科目・必修）、
「観光文化専門演習(1)」（前期・専門教育科目・必修）、「観光文化専門演習(2)」（後期・専門教育科目・必修）、
「卒業研究演習」（通年・専門教育科目・必修）、「卒業研究」（通年・専門教育科目・必修）、
「観光文化実践Ⅰ」（後期・専門教育科目・選択必修）、「観光文化実践Ⅶ」（前期・専門教育科目・選択必修）、
「観光文化実践Ⅹ」（前期・専門教育科目・選択必修）、「ホテル・マネジメント論」（前期・専門教育科目・選択必修）、
「コンシェルジュ論」（前期・専門教育科目・選択必修）、「ブライダル事業論」（後期・専門教育科目・選択必修）、
「観光文化(江戸・東京)」（後期・専門教育科目・選択必修）

2 理念（なぜやっているか：教育目標）

～講義型授業～

① 基礎的な知識を習得する

学生が、観光の歴史や文化、制度、社会的役割について基礎的な知識を習得し、習得した知識を社会活動や就職活動に活用できるようになることを目指す。

② 幅広く理解する

学生が、人文学や社会学、経済学や経営学など多様な学問を複合的に取り入れた観光学を学ぶことにより、幅広く現代社会や観光産業を理解することを目指す。

③ 思考力を磨く

学生が、実務家教員である講師が提示するイノベティブなケース・スタディを通じて、観光産業の現状や課題を見出す力を養うことを目指す。

～実践型授業～

① 社会人基礎力を身につける＜主体性、課題発見力＞

「観光文化実践」では、学生が自ら計画を立て検証するという一連の研究活動によって“主体性”をもって物事に進んで取り組む力や、校外における研究活動を通じて社会や事業者が直面している現状を分析し課題を明らかにする“課題発見力”“アイディ

ア発想力”を身につけることを目指す。

② 職業観を身につける〈観光産業、サービス産業〉

学生が、消費者の目線を大切にしながらも、研究活動を通じて産業側の経営者や事業者の立場になることで幅広い“思考力”を身につけることを目指す。

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

～講義型授業～

① オリジナル教材、書籍の提示

（PowerPoint の映写、MicrosoftTeams への格納および学生による閲覧）

「観光文化総論(1)」「観光文化総論(2)」「観光事業論」では、指定する教材に加えて、実務家教員である講師の経験と知見に基づいたケース・スタディを提示することで、理論や制度をふまえながらも革新的な事業や取組みを展開するまでの過程を具体的に解説している。また、講師は形式や分野は問わず書籍を紹介し、図書館の活用方法を解説している。

② リアクションシート作成、レポート作成

（MicrosoftTeams への課題提示および学生による提出）

「ホテル・マネジメント論」「コンシェルジュ論」「ブライダル事業論」では、毎回の授業の後に学生がリアクションシートを提出し、講師が学生からの質問へ回答をすることで、講師が学生個人の理解度を把握し双方向のコミュニケーションを図っている。

③ ゲスト講師

「観光事業論」「コンシェルジュ論」「ブライダル産業論」では、各科目に関連する事業や職業に従事する方々を招聘し講義を行ってもらうことで、学生は机上の空論ではなく、現在の社会情勢や背景に即した学習が可能となり、多角的に職業観を養うことができるようになる。

～実践型授業～

① 研究活動の企画

「観光文化実践」では、チーム研究を取り入れることで、学生が、意見の違いや立場の違いを理解する“柔軟性”を養うことをしている。

② 研究活動の実践

「観光文化実践」では、学生が、自ら課題（仮説）を設定し、実証のためのフィールドワークを計画し校外で実施した後、授業内で成果発表をしている。他者と協働し社会の規範やルールに従って行動することを覚え、新しいアイデア発想力を養っている。また、インターンシップについて学習する「観光文化実践X」では、夏休み期間

の就業体験に関する日報（社会人基礎力の把握）を Microsoft Teams の Forms を用いて提出させ、講師が日ごとにコメントしている。学生が就業に対する自己分析や社会人基礎力の把握ができるように仕組み化した。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

～講義型授業～

① 3-① 授業評価アンケート

おおむね良好であった。

② 3-② 学生が作成した Microsoft Teams の Forms のリアクションシート、レポート
学生は、学習した専門用語を文章化することで理解を深めることができ、加えて、授業内でできなかつた質問を講師へ直接できることになり、講師は、学生の授業内容の理解度や文章作成能力や語彙の活用力を個人別に把握することができた。また、Microsoft Teams の Forms からゲスト講師への事前質問も収集し授業内で回答することで学生の高い満足度を得ることができた。

③ 3-③ 講師独自のアンケート

各科目で平均して評価が高かった講義は、導入の部分の基礎的な学習の回とゲスト講師の回であった。ゲスト講師の回では、ホテルをはじめとするサービス産業で就業することへの興味関心を喚起させることができた。

～実践型授業～

① 3-① 学生が作成したプレゼンテーション資料

豊島区内の“まち歩きプラン”を企画し実証する「観光文化実践Ⅶ」では、区内を3つのエリアに分け3回実施することで、回を重ねるごとに学生の理解度の向上がみられた。また、学生は、チーム研究において自身の役割を明確にすることで、自身の“強み弱み”を把握することができた。

② 3-② 学生が入力した Microsoft Teams の Forms

インターンシップを学習する「観光文化実践Ⅹ」では、夏休み期間の就業体験に関する日報を Microsoft Teams の Forms で提出することを課した。学生は、モチベーションのアップダウンや社会人基礎力の発揮状況を記録することで、今後の就職活動に対する意識を高めることができた。

5 今後の目標（これからどうするか）

～講義型授業～

講師は、実務家教員としての知見や経験をいかしながら、革新的でイノベーティブな

ケース・スタディの解説やゲスト講師招聘等を積極的に行うことによって、学生が、社会における観光産業の存在価値や地方創生における役割、観光産業で働く意義を正しく理解できるよう指導していく。

～実践型授業～

観光文化実践や演習におけるチーム研究の人員配置、期間、役割、などの枠組みや運営について、授業開始後でも履修生の特性に応じて臨機応変に改変していくことが必要だと考えている。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

～講義型授業～

- ① 各授業の配布レジュメ（非公開：MicrosoftTeams へ格納）
- ② 学生が作成したリアクションペーパー、レポート（非公開：MicrosoftTeams へ格納）
- ③ 学生が作成したワークシート（非公開）

～実践型授業～

- ① 学生が作成したプレゼンテーション資料（非公開）
- ② 学生が作成したワークシート（非公開）